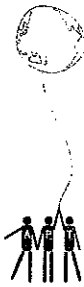


# APT

No. **100** APTニュースレター  
2016年9月発行



京都YWCA

Asian People Together

## Contents

ニュースレター100号を迎えて	1~3
移住連ワークショップ2016 in 徳島 報告	4
APTメンバー・リレートーク®	5
京都市立朱雀中学校出張授業の報告	6
外国人支援ボランティア養成講座を開催しました。	7
活動報告	8

## ニュースレター100号を迎えて

APT ニュースレターが記念すべき 100 号に達するため、実習生 2 人が、これまでの APT の歩みを読み、その感想をまとめました。

私は、今までのニュースレターを読んでみて、「APT はたくさんの人の協力のおかげで成り立っているんだな」と改めて強く感じました。私は、今年の 4 月から実習生として APT にお世話になっており、まだまだメンバーとしての日が浅いです。しかし、APT は、今までにたくさんの外国人やメンバーが関わり、今年 25 周年を迎えます。10 周年、20 周年記念誌を読んでも、知らない人達の名前のほうが多いです。しかし、この方達が APT を作り上げ、少しずつ変化、発展させてくれて、今の APT があるのだなと感じました。10 周年記念誌には、「APT のあれこれ」というコーナーがあり、メンバーのちょっとしたニュースが載せられています。メンバーに子どもが生まれたこと、結婚したことなど、読んでいてほのぼのとなるニュースがたくさんありました。そこからは、メンバーの仲の

良さがうかがえます。そして、現在もある APT の居心地の良さは始まった当初からあるとても素晴らしい雰囲気なんだと感じました。また、私のような実習生も今までにたくさん受け入れていることが分かりました。電話対応やケース相談など、まだ私はできないことを、歴代の学生はやっていたんだなと考えると、「負けてたまるか」というライバル心が出てきてしまいました。勝負するようなことではないのですが、私も歴代の実習生に負けずに今の APT の活動を頑張っていきたいと感じました。

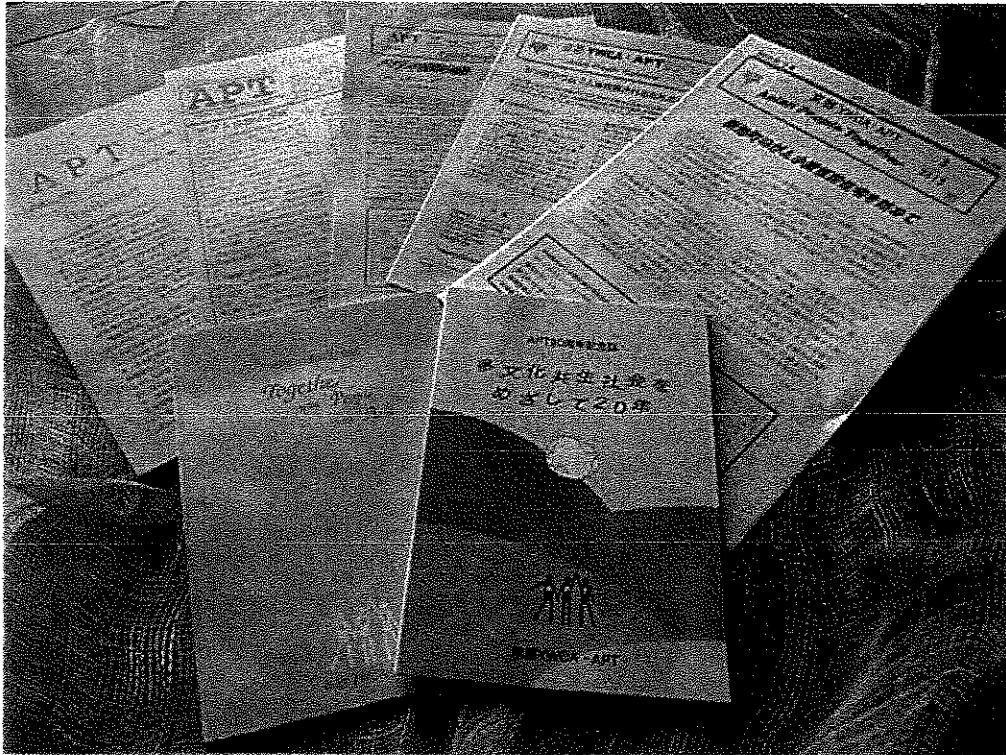
ニュースレターの内容は、ケース事例など明るい内容ではないものが多いですが、そんな中でも子どもプログラムなど、楽しそうなイベントがあったり、APT は相談者以外にもつながりがあるのだなと感じました。相談者の中でお子さんがいて、その子が参加したり、知り合いを

連れて参加したり、そうやってつながりが増えていったのだなと思いました。

25周年を迎えられたのは、今までにこのような APT メンバーや外国人が協力してくれたおかげなんだと感じました。直接関わったことのない方達が多いですが、ニュースレターを讀

むことで、その活動への思いを感じ取ることができました。私もメンバーの一員として、これからも続く APT の活動に積極的に参加し、APT の歴史を作り上げていきたいです。

(上倉 香澄美)



歴代の APT ニュースレター

こんにちは。同志社大学から実習で来ています、坂部です。APT ニュースレター100号目ということで、上倉さんの方は、「今までのニュースレターの総括を書く」とのこと、私はニュースレターの中で、琴線に触れた話題について掘り下げて書くことにしました。興味を持ったのは、第25号の「Sustainable Developmentをめざして/ティルブルグ市の試み」という記事で、オランダ南部の地方都市ティルブルグ市では、市と NGO とが連携し、当時（1997年）は主に環境問題に協力して取り組んでいるという内容です。

この記事に惹かれた大きな理由は、ティルブルグ市役所と NGO 双方の取り組み方として、私が日頃理想として思い描いているような「協力」の姿勢が描かれていたことです。全文はこうです。

「ある市職員の方によると、50年後のティルブルグ像について語り合えば、市役所も NGO も似たような目標を持っており、長期的な目標で合意してから、その目標に向けていっしょに短期的な目標を設定していこうという姿勢が成功の秘訣だそうです。ある案件について 80% 台

意できれば合意できたところまで協力し、残りの 20%は話し合っただけならそれはそれでよく、『お友達』になる必要はなくて、ビジネスパートナーとしての長期的な信頼関係を構築する努力を双方が行うことが必要とのことです。」

私がとても納得したのは、「80%合意できれば合意できたところまで協力し、残りの 20%は話し合っただけならそれはそれでよく」、「長期的な信頼関係を構築する努力を双方が行うことが必要」のところ。100%の合意でなくとも、一致するところまで、あるいは、目標が噛み合うところまで協力するという姿勢は、時間的労力的にとっても有用です。そうした協力関係は、当然のことですが、片一方が努力するのみで成り立つものではなく双方の努力によって成

立します。こうした努力姿勢を保ちつつ、活動を始めて続けていくには「自分自身がどうありたいか、そのために社会がどうあってほしいか」ということを日頃から考える必要があるなと思いました。もし「『自分自身がどうありたいか、そのために社会がどうあってほしいか』わからない、不満はあるけど考えたことはない」のであれば、まず初めの「目標」の設定が出来ない状態であるからです。

まず「目標」を意識化し、それについて、他者と一致する部分があるならば一致するところでき合う。「協力」とは「100%の合意」ではなく、そうした「目標の範囲」で成り立つものなのかもしれないと思いました。

(坂部 妙子)

## APT25 周年記念パネルディスカッション

### 滞日外国人をめぐる諸問題～司法・行政・介護福祉の視点から～

日時：10月9日（日）

場所：京都 YWCA ホール

第一部：パネルディスカッション 午後2時～4時 参加費：500円

大畑泰次郎（弁護士）～司法の視点より

山下 真（弁護士、元生駒市長）～行政の視点より

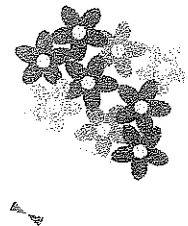
清水弥生（神戸女子大学准教授）～介護福祉の視点より

司会：マーサ・メンセンディーク（同志社大学准教授）

第二部：交流会&フィリピン人歌手ライブ（軽食付き）

午後4時～5時半 参加費：一般 1,000円

学生・外国人 500円



※第一部は各界で活躍する元 APT メンバーによるパネルディスカッション。第二部では相談者のフィリピン人歌手の歌もお楽しみいただけます。みなさまのご参加をお待ちしています。

お申し込みは京都 YWCA

tel. 075-431-0351

fax. 075-431-0352

e-mail. [apt@kyoto.ywca.or.jp](mailto:apt@kyoto.ywca.or.jp) まで。

## 移住連ワークショップ 2016 in 徳島 報告

全国の滞日外国人支援団体で作っている「(特定非営利活動法人) 移住者と連帯する全国ネットワーク」は、毎年ワークショップ大会と全国フォーラムを交互に開いて情報を交換している。今年は「日本の移民政策を問う」と題して、6月4日、5日の2日間徳島でワークショップ大会が開かれた。

「ヘイトスピーチ/クライムに対峙するために」と題した報告などの後、5つの分科会で話し合いが行われた。私が参加したのは「移住女性/貧困」の分科会である。APT では、国籍、男女の別、内容を限定せず外国人の相談に対応しているが、実際は移住女性からの相談が大多数を占めている。そんな中で彼女たちの生活苦を目の当たりにすることも多く、仕事、特に安定した仕事を見つけるのがいかに困難かを感じている。また、日本語能力の有無が大きく関わっていることも課題であると思っていた。そういう訳でこのテーマは身近であり、大変興味をそそるものだった。

この分科会では他にも興味深い報告がなされたが、ここでは、APT の日頃の活動と特に関わるこの問題について報告したい。

もりきかずみさん(ワークメイト)の報告では、支援をしてきた元相談者たちから、問題が解決した後も生活支援に関わる相談を受けてきた結果、安定した就労支援が必要であることを感じ「ワークメイト」という支援組織を作ったとのことである。しかし、企業の求める人材とシングルマザーたちの条件とが合わないため就職に結びつけることが難しいこと、日本語能力向上・職業訓練の必要性などが課題として明らかとなったそうである。

林隆春さん((株)アバンセコーポレーション)は、移住女性の就労支援の取り組みとして、美容エステ、Web デザイン、CAD、接客、介護職員養成などの職業訓練を行っており、特に、日本語の訓練を前もってしておくことで就職率が高くなっていることを報告された。

また、兼松文子さん(徳島県労働者福祉協議会)から、労働者福祉協議会による就労・社会参加支援事業の報告があった。ここでは、就労・社会参加促進のための日本語講座として目的ごとに、「就職のため」「介護」「保護者のため」の日本語講座や「漢字学習講座」が開かれている。さらに、「就労支援日本語講座」を社会福祉法人、医療法人を会場にして開いており、それによって仕事の内容を見据えつつ日本語を勉強できるようにし

ている。また「ビジネスマナー講座」「パソコン講座」「介護初任者研修」など資格取得・技能習得のための講座や「就職相談会」「職場実習」「就職体験談と交流会」「中途採用マッチングフェア」などもある。それが就労者数増加へとつながっている。これらの取り組みには「定住外国人の就労・社会参加促進連絡協議会」が関わり、県、県教委、労働局、社会福祉法人経済団体、弁護士会、国際交流協会などがメンバーに加わっている。この連絡協議会では課題を明確にし、改善に取り組んでいるが、依然残る課題として、①来日直後から日本語学習ができる仕組みの構築、②限られた予算で最大限の効果を上げる工夫、③外国人たちの意識改革、④就労後も専門分野の日本語が学べる環境、⑤配偶者のネットワーク構築などをあげている。

今まで、生活能力の向上のためには、漠然と「日本語能力」が必須であると考えていたが、上記の報告を聞き、京都においても、目的別、実践的日本語講座と職業訓練を行うことが重要であることを認識した。今後これらの事例を参考に何ができるか、何を提言できるか考えていきたいと思った。

(安藤いづみ)

## APT メンバー・リレートーク②

初めて「APT」という名前を目にしたのは、ウイングス京都でたまたま見かけた一枚の広告でした。「京都YWCA APT」。YMCAとかYWCAとかは以前から聞いたことはありましたが、「APT」という名前を知ったのはその時が初めてでした。そこには「APT」で行われるボランティア相談員養成講座への参加呼びかけが書かれていて、自分が今までかかわってきた世界とは違う世界のような気がして参加することにしました。有料の4回シリーズの講座を受けて2013年3月からAPTの活動に参加し始めました。その後電話相談、相談者の同行、関連団体のセミナーを経験して一番驚いたのは、日本人として生まれ、育ち生活してきたのに日本のことで知らないことがいっぱいあったということです。

そもそも区役所に福祉課があったなんて知りませんでした。郵便小為替って何ですか？行政書士さんって何をする人ですか？家庭支援センターにあるシェルターって何でしょうか？様々な相談者とかかわりを経て、日本国籍はどのようにして取得するのですか、とか、市営住宅ってこうやって申し込むのですか、ということを知りました。相談者の方に同行して色々なところへ行くたびに新しい発見があって、驚いたり、喜んだり、ほっとしたり、時にはくやしい思いをしたりとの連続です。また保健センターの保健師さんに同行して、日本でお子さんを出産されたばかりの海外のカップルのお宅を訪問する機会があるのですが、日本とは違う文化・生

活習慣を目の当たりにすることもありました。遠い北の国から来られた若い外国人ママさんに、保健師さんが生まれたての赤ちゃんのお風呂の入れ方を説明しようと言われた際、その外国人ママさんから「生まれたての赤ちゃんを裸にしてお湯につけるなんてとんでもない！暖かい部屋でベビーオイルで丁寧にふくのだと自分のお母さんから教えられた」と。また、別の国から来られたカップルからは、「赤ちゃんが便秘になったらハラルのハーブティーをミルクの合間に飲ませるとなおりますよ」と逆に教えられたりしたこともあります。

それにしても、日本で生きていこうと決心された海外から来られた女性は強い！と思います。驚いたり、泣いたり、がっかりしたり、しおれたりされる時もありますが、そのほとんどの方があきらめずに日本で生活していく道を選ばれます。それと同じ経験をした人にしかわからない苦労と喜びを天秤にかけて量ることはできませんが、もし量ったとしたら、もしかしたら苦労のほうが重いかもしれないけれど、皆さんネバーギブアップ！そのような相談者に寄り添って支援するというのは口で言うのは簡単ですが、実は難しいものだと実感しています。アベノミクスの一億総活躍の中に、日本に根をはって誠実に生きていこうとされる外国人の方が一人でも多く含まれるよう、APTでの自分の活動はまだまだ始まったばかりだと思っています。

(西 正美)

APTメンバー・リレートークは執筆者が次の執筆者を指名し、続けていくリレートークです。



## 京都市立朱雀中学校出張授業の報告

6月16日と17日の2日間、京都市立朱雀中学校2年生を対象に出張授業を行いました。16日はインドネシアジャワ島出身のエニさん、17日は韓国釜山出身の崔さんが講師を担当してくださいました。また、箕面市国際交流協会の大野アンドレイアさんが崔さんの授業のお手伝いもしてくださいました。新しい協力関係のもと実施することができました。

エニさんは、ジャワ島を中心に、言語、文化、歴史、自然、世界遺産など丁寧に説明してくれました。インドネシア国内には時差が3つあること、日本と比べれば西は2時間、中央は1時間差があり、東は同じです。お正月のお祝いは時差があるので、「Happy New Year!」と3回祝えるという話には、時差のない日本で暮らしていると面白いと感じました。また、じゃんけんの仕方も、人間、アリ、ゾウがあって、アリがゾウに勝つということです。エニさんの「どうしてアリは小さいのにゾウに勝つのかな?」という問いに、子どもたちも「アリはゾウの上に乗れるから?」と一生懸命考えていました。答えは、「アリがゾウの耳の中に入って、ゾウが死ぬ」と言われていて、「小さくても負けない」という哲学だそうです。日本に来てショックだったことの一つに、日本のお笑い番組があるということも話してくれました。人の頭をたたいて、みんなで笑っているのを見るのもとてもショックだったということです。インドネシアの楽器「アンクルン」を演奏したり、民族衣装を試着したり、たくさんの体験と、エニさんの前向きでパワフルなお話、あっという間の2時間でした。

崔さんは、最初の1時間で故郷釜山のいろいろな側面を紹介してくださいました。高層ビルが並

ぶ発展した地域、国内や海外でも有名なビーチ海雲台、日本の歴史と関係の深い古墳群など、釜山の歴史と発展を感じられました。また、最近の中学生の制服の写真が出でくると、女の子たちから「かわいい〜!」「いいなー!」という声が一斉にあがりました。それくらい韓国の中学生の制服は魅力的に見えたようです。中学生の時間割表には、先生も子どもたちも興味津々で見っていました。お隣の国ですが、似たところ、違うところ、たくさん感じられました。また、崔さんの日本での経験、部屋をかりる時、「韓国人、外国人は保証人にはなれません」と断られたことも聞きました。崔さんが最後まで「どうして外国人ではダメなのか?」と何時間も電話をかけて、日本の担当者と話し合いをかさねたと、勇気をもって行動することの大切さを伝えてくれました。後半の授業では、外国から来た中学生と日本の2人のクラスメートの掃除の場面を、寸劇にして代表の生徒が演じてくれました。それを見て意見交換するという、これまでのプログラムにはなかったチャレンジングな内容でしたが、崔さん、学校の先生方、子どもたちの協力のもと、とても内容の深い、いい時間となりました。崔さんの最後のメッセージ、「弱い立場の人に思いやりをもってほしい。勇気をもってほしい。みんなの小さな勇気が大きな変化につながる。」という言葉に、私も含め同行したスタッフは涙ぐみ、子どもたちや先生方は顔をあげて真剣に聞いていました。とても感動的な場面に立ち会えて、共育Pが出張授業を続けることの意義をかみしめることができました。

(孫 美幸)



## 外国人支援ボランティア養成講座を開催しました！

APT 史上初めて支援ボランティア養成講座を開催したのが2012年。APT 相談員の減少を受けて、4年ぶりに支援ボランティア養成講座



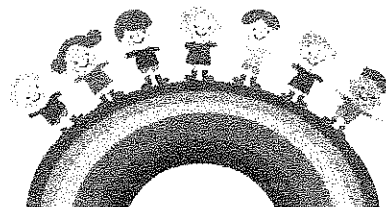
ゲストからお話を伺う

を開催し、全4回の講座にのべ17名に参加いただきました。

講座では①APTの具体的な活動の説明、②実際のケース紹介、③元相談者の声、④先輩相談員の体験談などを取り上げました。途中、在留資格について考えるワークや在日外国人女性の生活のシミュレーションなどを行い、相談者のおかれる環境に思いが寄せられるよう、工夫しました。全回を通じて参加者からは様々な質問をいただき、活動への関心の高さを感じました。

講座の参加者数名から今後のAPTの相談活動への参加表明をいただき、これからの活動活発化を楽しみにしています。

(岡 佑里子)



みなさま

いつもAPTをご支援いただきましてありがとうございます。2016年度もともに生きる社会を目指して活動を続けるため、お力をお貸しいただけると幸いです。維持会費一口5,000円/年より

維持会員・ご寄付をいただいた方（敬称略） 5/16 - 8/15

村井京子 清水弥生 森田園子 石井ゆき 林 律 織田雪江 永井靖二 大津恵子  
大西澄子 神門佐千子 西原美那子 嶋川まき子 安藤いづみ  
日本キリスト教団洛陽教会

ありがとうございました。



# 活 動 報 告

5月16日 ~ 8月15日

## 5月

- 19日 関西医療生活ネットMT参加@RINK
- 21日 同志社大学生受け入れ  
DV被害者支援専門研修@京都府家庭支援総合センター
- 28日 APT全体ミーティング・ケース協議

## 6月

- 4,5日 移住連ワークショップ参加@徳島
- 10,17,24日 大阪YMCA学院高等学校「多文化共生考」出講
- 11日 きょうと多文化支援ネットワークMT参加@京都市国際交流会館
- 13,23,30日 APT 主催外国人支援ボランティア養成講座開催
- 16,17日 京都市立朱雀中学校出張授業（APT 多文化共育プログラム）
- 25日 APT全体ミーティング・ケース協議

## 7月

- 1日 大阪YMCA学院高等学校「多文化共生考」出講
- 11日 APT 主催外国人支援ボランティア養成講座開催
- 12日 健康フィエスタ実行委員会@伏見青少年活動センター  
京都市多文化施策懇話会出席
- 13日 大阪YMCA学院高等学校「多文化共生考」採
- 14日 同志社大学石井ゼミ訪問受け入れ
- 16日 日本語支援ボランティア養成講座出講@城陽市国際交流協会
- 26日 多文化共育プログラムMT
- 31日 親子イベント下見



### 新規相談件数集計

2016年5月16日～2016年8月15日：34件			
●国籍別			
	日本		2
	フィリピン	15	アメリカ 2
	不明	5	インド ②
	中国	3	エジプト、フランス タイ、ベネズエラ マレーシア 各1
●性別			
	女性	31	男性 3
●居住地			
	京都	28	
	滋賀	2	
	兵庫	2	
	不明	2	
●相談内容			
	通訳	14	その他 2
	結婚離婚	7	労働 1
	生活	4	DV 1
	子ども	4	医療 1
●延べ数	189件		
	電話	133	通訳 8
	メール	18	FAX 4
	来所	12	手紙 3
	同行	11	

京都YWCAとは・・・  
京都YWCAはキリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

京都YWCA・APTは多文化共生社会の実現を求めて外国籍住民のための支援プログラムを展開している京都YWCAのグループです。  
**相談電話：075-451-6522**  
**月曜日：13:00-16:00**  
**木曜日：15:00-18:00**  
その他、多文化の出張授業や子どもプログラムもあります。

APTニュースレター No.100 2016年9月発行



〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル 近衛町44  
TEL：075-431-0351 FAX：075-431-0352  
Email: apt@kvoto.ywca.or.jp

本ニュースレターの送付についてご迷惑な方はご連絡ください。次回からの送付は差し控えてさせていただきます。